

緊急報告 総合的病院の誘致について

理想的な地域医療の体制を



逗子市長 平井竜一

総合的病院実現への決意

2016年12月に公募によって選考した医療法人社団 葵会は、今後、都市計画や条例の手続きを進めていきます。現在109床の病床を得ており、逗子市としては並行して、公募条件である200床以上、最終的に

には300床規模の病院を目指して、引き続き増床を求め、市民の命を守る総合的病院の誘致を必ずや実現する決意です。

越えねばならない病床確保のハードル

病院誘致に不可欠な病床の確保には高いハードルがあります。3月に策定された県の第7次保健医療計画の検討段階では、三浦半島の二次保健医療圏で病床が131床不足という素案が出ていたため、今年度に増床申請ができることを期待していたところ、2月に三浦半島地

区保健医療福祉推進会議において、現在、既存の病院が持つ未稼働の病床が349床あることから「病床は不足していない」との意見が多数出され、残念ながら今年度中の増床のめどは立たなくなりました。

病床確保の可能性はある

一方、県の地域医療構想では団塊世代が全て75歳になる2025年までに三浦半島で病床が773床不足すると予測されています。つまり、超高齢社会に備えるためには計画的に病床を増やす必要があるのです。従って、県は三浦半島については、毎年、最新の人口と病床利用率を基に再計算し、病床数の見直しを検討することとしており、今後、病床確保の可能性はあると考えています。ちなみに、今回適用された算定基準を用いても県は2020年に三浦半島で196床の病床が不足すると試算しています。

目指している病院機能を実現するには時間が必要

もう一つの難題が、病院の機能は自由には決められないことです。現在、葵会に配分された109床の内、救急に対応する急性期病床は24床にとどまっています。今後、急性期病床がどれだけ配分されるかは予断を許

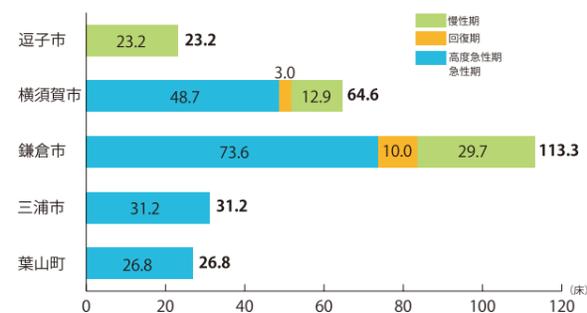
2016年9月に、4度目の誘致を発表した総合的病院。現時点での病院の機能やスケジュールなど、進み具合をお知らせします。

国保健康課

しません。配分結果によって病院の担える機能は変わってきます。

逗子市としては、三浦半島の各病院に偏在している診療機能を再編し、地域医療体制を最適化・効率化する必要があると考えています。そのためには、病院間の連携・協力が不可欠であり、時間はかかっても三浦半島全体で医療ネットワークを構築して、逗子市が必要とする病院機能を確保していきます。

人口1万人当たりの入院ベッド数(病床数)



*病床数は平成28年度病床機能報告(平成28年7月1日時点)より、人口は平成30年3月1日現在の推計人口。

市民のためになる病院を実現すれば 医師会の協力は得られる

4月に改めて逗葉医師会に協力をお願いしました。そ

の際、会長からは「救急など市民ニーズの高い総合的病院の誘致には賛成する。ただし、全国的に医師不足のため葵会は医師を確保できない可能性があるため、そのときどうするのか心配している」との見解でした。

一方、全国規模で病院を運営している葵会の理事長は「医師の確保は心配していない」と言っています。従って、葵会が必要な機能を備えた病院を開業し、医師を確保してしっかりとした運営ができれば、医師会も協力いただくと受け止めています。

病院誘致のスケジュールは遅れても必ずや成し遂げます

病院を建設するには、都市計画の用途地域変更とまちづくり3条例の手続きが必要ですが、それに2年～3年を要します。さらに、病床の確保にも相当の時間がかかるため、目指している病院が実現するのは当初の予定よりも大幅に遅れます。

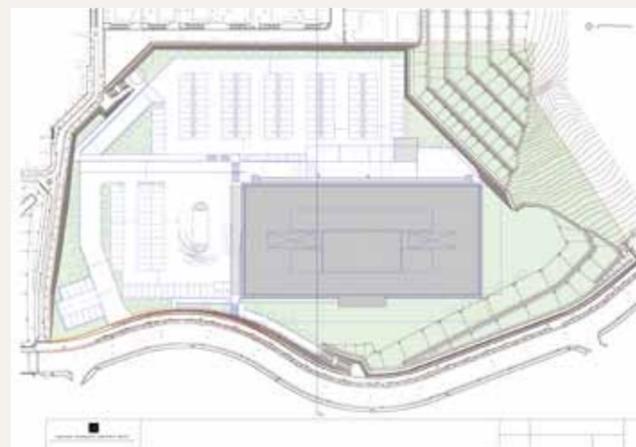
しかし、総合的病院の誘致は逗子市にとって長年の悲願です。決してあきらめることなく、病床の確保など様々な課題を克服して総合的病院を必ずや実現し、理想的な地域医療体制を構築してまいります。市民の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

病院の概要

病床数	開設時 200床以上、最終的には300床規模
救急体制	内科・外科は、二次救急の輪番制に参加し、24時間365日救急体制の確立を目指す。小児科は、医師の確保ができ次第実施。
診療科目 (全13科目)	内科、循環器科、小児科、外科、脳神経外科、整形外科、婦人科、口腔外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科
その他	災害時の拠点 在宅療養の後方支援 地域医療との連携

*診療科目などは、現時点での予定であり、変更となる可能性があります。

建築計画配置図案 (2017年10月現在)



今後のスケジュール

